

2024年度第4四半期報告（2025年1月から3月までの状況）

1 治安情勢

（1）非常事態宣言の発令

2025年3月4日、ピチンチャ県キト市、グアヤス県、エル・オロ県、サンタ・エレナ県、マナビ県、スクンビオス県、オレジャナ県、ロス・リオス県及びアスアイ県カミロ・ポンセ・エンリケス市を対象とした非常事態宣言の発令期間を30日間延長することを発表した。

対象となる地域においては、現在も多数の治安要員が派遣され、治安維持に当たっているものの、同地域に限らず国内全域において、殺人事件等の凶悪犯罪が発生している。引き続き不測の事態に巻き込まれぬよう身の安全確保に留意する必要がある。

（2）犯罪統計及び治安概要

ア 2025年1月から3月の間に発生した殺人件数は2,150件であり、2024年の同期間の1,252件と比較して907件の増加（72%増）となった。

イ 殺人事件は、グアヤキル市、ロス・リオス県、マナビ県、グアヤス県、エル・オロ県の地域での発生が全体の82%を占めており、特にグアヤキル市での発生が最も多い。

ウ 2025年1月から3月の間に発生した犯罪総件数は29,565件であり、2024年の同期間の38,146件と比較して8,851件の減少（23%減）となった。

エ バイクや車の盗難事件が増加傾向にある。これらの犯罪は、銃器を使用して相手を威嚇し、奪い取る手法が多く、同時に金銭を要求されることもある。特に夜間から早朝にかけて多く発生しているため、その時間帯における外出や単独行動を控えるなどの注意が必要である。

2 大規模デモ・抗議活動等

（1）2019年10月3日、ガソリン等燃料補助金の廃止等の政府の緊縮財政政策に反対し、全土で大規模な交通ストやデモ等の抗議活動が行われた。一部の抗議活動は暴徒化し、道路封鎖、放火、略奪、治安部隊との衝突等が発生した。同日、大統領は非常事態宣言を発令した（同年11月3日解除）。

同年10月13日、政府側と反対勢力側の間で、緊縮財政政策の一旦撤回と抗議活動の停止について合意がなされ、約11日間に及んだ抗議活動は沈静された。

一連の騒動では、少なくとも8人が死亡、1,300人以上が負傷（治安部隊を含む。）、1,100人以上が逮捕され、エクアドル史上最悪と言われる事態となった。

（2）2022年6月13日、政策に対する要望のため、先住民団体 CONAIE が主導するデモ活動が行われ、全国各地で大規模な道路封鎖や暴動等が発生した。一部の抗議活動は暴徒化し、大統領は6月17日、20日、29日に非常事態宣言を発令し、エクアドル軍が警察の治安維持活動に参加した。

7月1日、18日間に及んだデモ活動は終了したが、5人が死亡、538人が負傷および150人が逮捕される事態となった。

（3）2024年8月12日、政府が発表した燃料費の値上げへの反対を理由に、今後国内においてデモやストライキが発生した。

3 犯罪の発生状況

(1) 爆弾等事件

ア 2024年4月22日、キト市北部のエル・コンダドにおいて、スーツケースの中に入った、死体が発見された。事前情報によると、スーツケースの中から発見された死体は30歳前後の男性のものであった。また、4月14日には、キト市シモン・ボリーバル通りで銃弾にまみれた3人の男性の遺体が発見された。警察は、これらの事件が犯罪組織同士の抗争に起因したものと断定した。

イ 2024年6月18日、大使館から南に約100mに位置する裁判所合同庁舎において、爆弾がしかけられた。爆弾は緊急で駆けつけた国家警察特殊部隊（GIR）により、無効化処置が行われたが、爆発すれば、致死半径は約14mとなり、5～10mの範囲で構造物に大きな損傷与えるものであった。

ウ 2025年3月13日、グアヤキル市のリトラル刑務所付近で、何者かが爆発物を爆発させ、その結果、刑務所職員が死亡、他2人が負傷した。本爆発により、5台の車両が破壊され、50メートル離れた建物が破壊された。

(2) 一般的な生活圏内において発生した殺人、強盗事件等の例（報道等抜粋）

【路上強盗】

サカピントスと呼ばれる、銀行で多額の現金を引き出した者の後を付け、現金を奪う窃盗方法。犯人は銀行での見張り役、強盗の実行役、逃走のための車両運転役と役割が分かれている。以前は5,000ドル以上の高額取引客が標的にされていたが、直近では500ドル以下の取引においても被害が発生している。

【誘拐未遂】

住宅街を徒歩移動していたところ、直近で車が急停止し、ナイフを持った男性2人組が車両内に拉致しようとした。女性が現金、携帯電話を含めた所持品を差し出したところ、拉致からは逃れられ、犯行車両は逃走した。エクアドルでは、所持品を狙った短時間誘拐が多発している。

【強盗殺人】

母親が自宅を施錠せずに外出した30分の間に、自宅に居た4歳と7歳の女兒が殺害された。

(3) 邦人被害及び防止策

【車両強盗】

夜間、カルチ県コロンビアとの国境付近の街道において、信号停止中に後方より車両に追突され、直後に銃を持った犯人グループに囲まれ、金品を強奪された。

国境周辺は治安が悪化している傾向にある。車両でも夜間の行動は控える。やむを得ず走行する場合でも、信号に注意して、極力停止することは避けること。

【盗難】

日中、市場の入り口に向かっていたところ、周囲から衣服に鳥の糞尿が付いていると言われ、ティッシュを差し出された。被害者は衣服の汚れを拭き取るため、所持していたカバンを床に置いたところ、気づいた時にはカバンはなく、犯人と思われる物は立ち去っていた。

同様の手口には、ケチャップやマスタードが使用される。万が一、周囲から同様の注意を受けた際は、所持品を自分の身体から絶対に離さないこと。

【盗難】

市場で買い物中、背中側に背負っていたバックのチャックが開けられており、携帯電話がなくなっていることに気付いた。周りを見渡したが時には怪しい人物は見当たらなかった。常に周囲の状況には注意を払い、不審な人物を発見した場合は速やかにその場を離れること。

【盗難】

ピチンチャ県キト市内を運行するバスに乗車したところ、背中に背負ったバックを気付かぬ間に開けられ、現金及びパスポートを盗まれた。被害者が気付かぬ間の犯行であったため、犯人は特定できず。

バス、地下鉄等の公共交通機関を使用する場合は、バックを前に持つ等、所持品には常に気を配ること。

【駐車場内強盗】

日中、キト市内の銀行駐車場にて銃で脅迫され、鞆を奪われたもの。

銀行に行く場合は、車から降りる、または銀行から出る際に周囲への注意を怠らないこと。また、車を駐車する際には、警備された明るい駐車場を使用すること。万が一、被害にあった場合は命を最優先し絶対に抵抗はせず、犯人が現場を去った後に速やかに警察に通報すること。

【住宅強盗】

深夜、在宅中の住居に銃を所持した5人組に押し入れられ、緊縛された後、1時間ほど室内を物色され金品を強奪されたもの。

住居、または旅行のホテルを決める際は警備員の有無、監視カメラなどの警備設備を確認すること。万が一、被害にあった場合は命を最優先し、犯人の顔を見る、指示された以外の動きをする等の、犯人に抵抗の意思があると思われるような行動は絶対にしないこと。

4 自然災害の発生条項

(1) 地震災害の発生状況(2019年1月以降、マグニチュード6.0以上)

ア 2019年2月22日、モロナ・サンティアゴ県東部を震源とするマグニチュード7.5の地震が発生し、建物倒壊等により9人が負傷した。邦人被害の認知なし。

イ 2020年6月23日、メキシコ南部を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、エクアドル沿岸部に最大約50cmの津波が到達した。被害の認知なし。

ウ 2022年1月31日、キト市ラ・ガスカ地区において豪雨を原因とする土砂崩れが発生し、107棟の建物が被害を受け、28人が死亡した。邦人被害の認知なし。

エ 2023年3月18日、グアヤキル市を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生し、建物倒壊等により、28人が死亡した。邦人被害の認知なし。

(2) 豪雨災害の発生状況

2025年のエクアドルでは、降雨量が例年の1.5倍に達し、約30地域で洪水が発生し、約5,000世帯が避難を余儀なくされた。また、土砂崩れが約15件発生し主要道路が寸断され、約10,000ヘクタールの農地が被害を受け、収穫量が30%減少した。少なくとも20名の死者が確認され、50件の道路や橋が損傷するなど、深刻な被害が報告された。

5 日本人の安全に関わる問題

移動中における強盗・誘拐、自宅や会社など関係する建物への侵入及び身の回りに潜む盗難（すり、置き引き、ひったくり等）などの各種犯罪に、十分警戒する必要がある。